

長崎国際大学 職業実践力育成プログラム(BP):履修証明プログラム 自己点検・評価表

【プログラム名】2020(令和2)年度～2022(令和4)年度 履修実績

- 2020(令和2)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【1名修了】
- 2021(令和3)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【1名修了】
- 2022(令和4)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【2名修了】

【自己評価基準】

- 4:計画を上回って実施している。
- 3:計画を十分に実施している。
- 2:計画を十分に実施していない。
- 1:計画を実施していない。

【総合評価】

外部評価の総点/委員総数  
(小数点第2位を四捨五入)

2020(令和2)年度～2022(令和4)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成 履修生なし

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>1. プログラムの目的・概要</b>			
<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】</p> <p>少子高齢化、「人生100年時代」ならびに人工知能の普及などの条件の下、インバウンド観光客を含む交流人口の増加が、各地の地域社会に求められている。当プログラムでは、観光まちづくりを通じて地域おこしに貢献するリーダーを育成する。「国際関係特講」では、インバウンド観光客に、佐世保市ならびに周辺地域の観光地の特徴と魅力を効果的に発信する方法を調査する。対象とする観光客の国・地域の文化と、国際関係史を研究した結果を、上記の発信に反映させる。</p> <p>次に「観光経済特講」では、経済学の視点から観光活動に関わる諸主体の行動を理解するとともに、観光現象の研究手法を学ぶ。また、地域社会の特徴と魅力を来館者に伝える博物館は、重要な観光対象の一つである。「博物館特講」では、世界遺産、道の駅、重要伝統的建造物群保存地区、ジオパーク、水族館・動物園も視野に入れて、博物館のありかたを理解する。地域社会の存続に向け、その魅力を観光客に効果的にアピールし、収益が上がるようにすることが求められる。この観点から、「観光マーケティング特講」では、観光分野でのマーケティングの方法を学ぶ。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】</p> <p>同プログラムは本学人間社会学研究科観光学専攻科目である「国際関係特講」、「観光経済学特講」、「博物館学特講」、「観光マーケティング特講」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】</p> <p>自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、計画を十分に実施していると判断。</p>	3

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)</b>			
<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修修了生に対し以下の質問を行いたいが、履修生がいなく、アンケート調査未実施。。</p> <p>【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。</p> <p>【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。</p> <p>【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修生がいなくアンケート調査、未実施。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】</p> <p>履修修了生アンケート調査未実施の為、履修生の募集活動は実施したが、履修生がいないため、「計画を実施していない」と判断。</p>	1
<b>3. 履修生の募集</b>			
<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 同プログラムは、2020(令和2)年～2022(令和4)年、定員5名にて募集。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 結果的には定員5名に対し、0名の履修とった。充足率は0%。</p>	<p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】</p> <p>自己分析に基づき、履修生の募集活動は実施したが、定員充足率0%により、計画を実施していないと判断。</p>	1

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>4. 履修生の修了</b>			
【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 2020(令和2)年～2022(令和4)年の同プログラムの修了生は、履修0名に対し、修了0名。	【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修0名に対し、0名の修了。	【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 自己分析に基づき、修了率0%により、計画を実施していないと判断。	1
評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	
<b>5. 意見聴取、情報交換、評価体制</b>			
<p>本項目については、昨今のコロナ禍があり、通常、対面で行っていた連携連絡会議(産学官連携推進協議会)は署名会議として行った。</p> <p>①「2020年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>②「2021年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>③「2022年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>④①～③により、地域連携センター・地域連携室は自己分析・自己評価を行い、①～③の連携連絡会議の外部評価と2段階評価を行った。</p>	<p>①「2020年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>②「2021年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>③「2022年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>④「2023年度第7回地域連携センター会議」自己分析・自己評価、また履修証明プログラム修了生に対するアンケート</p> <p>以上、①～④により、外部意見・評価、及び学内の地域連携センターは、 ○履修生修了生の評価は高評価 ○募集・広報については、同プログラムによっては募集“0名”があり、低評価。と分析した。</p>	<p>自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、前回同様、評価に値すると考える。</p> <p>また、同プログラム実施3年後、外部者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価・外部意見」を実施したことは評価に値する。</p> <p>以上の分析結果により、本項目については、計画を十分に実施していると判断。</p>	3

2020(令和2)年度～2022(令和4)年度:地域の福祉リーダー育成講座【4名修了/アンケート回答3名】

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
1. プログラムの目的・概要			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】                      今日の社会福祉は、住み慣れた地域において安心・安全な暮らしを送ることを支える為として認識されている。こうした地域での暮らしを支えていくためには、行政による施策実行はもとより、地域自体が当該地域に生じた課題に対する対応力を形成・蓄積していくことが求められる。そのためには、そうした力を形成するための取り組みが可能な企画力・組織力・実践力を豊かに有する福祉リーダーの存在が鍵になるであろう。本プログラムにおいては、そうしたリーダーの育成を目的とした内容で構成している。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】                      同プログラムは、「人権思想・社会福祉史特講」、「地域医療、保健特講」、「福祉政策経営特講」、「事例研究(地域福祉計画)」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p>	<p>【福祉リーダー育成講座】                      自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、計画を十分に実施していると判断。</p>	3

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 履修修了生に対し以下の質問を行なった。 【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。</p> <p>【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。</p> <p>【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 アンケート結果は、 【問1】:②思う3人 【問2】:②思う1人           ③どちらとも言えない2人 【問3】:②思う2人           ③どちらとも言えない1人 と履修修了生からの評価を得た。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、履修修了生アンケートからは5段階中、 【問1】 4評価 【問2】 3.3評価 【問3】 3.7評価 以上により、全体で平均3.7。 との評価を得たことにより、計画を十分に実施していると判断。</p>	3
<b>3. 履修生の募集</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2020(令和2)年度～2022(令和4)年度の同プログラムは、各年度定員5名にて募集。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 結果的には定員5名に対し、2020(令和2)年度:1名、2021(令和3)年度:1名、2022(令和4)年度:2名の履修として行なった。2020(令和2)年度～2022(令和4)年度の履修生4名/定員15名、充足率は約27%。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、2020(令和2)年度～2022(令和4)年度の3年間の定員充足率約27%により、計画を十分に実施していないと判断。</p>	2

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>4. 履修生の修了</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2020(令和2)年度～2022(令和4)年度の同プログラムの修了生は、2020(令和2)年度履修1名に対し修了1名、2021(令和3)年度履修1名に対し、修了1名、2022(令和4)年度履修2名に対し修了2名となった。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2020(令和2)年度履修1名に対し修了1名、2021(令和3)年度履修1名に対し、修了1名、2022(令和4)年度履修2名となり、修了率は100%。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、修了率100%により、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3
<b>5. 意見聴取、情報交換、評価体制</b>			
<p>本項目については、昨今のコロナ禍があり、通常、対面で行っていた連携連絡会議(産学官連携推進協議会)は署名会議として行った。</p> <p>①「2020年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>②「2021年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>③「2022年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>④①～③により、地域連携センター・地域連携室は自己分析・自己評価を行い、①～③の連携連絡会議の外部評価と2段階評価を行った。</p>	<p>①「2020年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>②「2021年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>③「2022年度:第1回連携連絡会議(書面会議)」外部意見聴取・評価</p> <p>④「2023年度第7回地域連携センター会議」自己分析・自己評価、また履修証明プログラム修了生に対するアンケート</p> <p>以上、①～④により、外部意見・評価、及び学内の地域連携センターは、 ○履修生修了生の評価は高評価 ○募集・広報については、同プログラムによっては募集“0名”があり、低評価。と分析した。</p>	<p>自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、前回同様、評価に値すると考える。</p> <p>また、同プログラム実施3年後、外部者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価・外部意見」を実施したことは評価に値する。</p> <p>以上の分析結果により、本項目については、計画を十分に実施していると判断。</p>	3

2020(令和2)年度～2022(令和4)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成 履修生なし

	自己評価
1. プログラムの目的・概要	3
2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)	1
3. 履修生の募集	1
4. 履修生の修了	1
5. 意見聴取、情報交換、評価体制	3
自己評価平均	1.8

2020(令和2)年度～2022(令和4)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【4名修了/アンケート回答3名】

	自己評価
1. プログラムの目的・概要	3
2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)	3
3. 履修生の募集	2
4. 履修生の修了	3
5. 意見聴取、情報交換、評価体制	3
自己評価平均	2.8